HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

| | |
|---|---|
| タイトル | 「最後に少しだけ微笑んで」・略歴・業績 |
| 著者 | 常見，信代; TSUNEMI，Nobuyo |
| 引用 | 北海学園大学人文論集(60)：7-13 |
| 発行日 | 2016-03-31 |

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

常見信代教授

# 「最後に少しだけ微笑んで」

常　見　信　代

すべては二本の電話から始まったと思います。平成 10 年の秋遅くに北大退職後に人文学部日本文化学科に移られていた永井秀夫先生から「英米文化学科の大学院を設置するために来てもらえないか」との電話がありました。その年の夏にイギリス中世史の東出功先生が病気で急逝されたためでした。後で知りましたが，日本文化学科はすでに博士課程まで設置されましたが，英米文化では何度か話は出ても動きにならず，頼みの綱の東出先生も…ということだったようです。予期せぬことで躊躇しましたが，永井先生は東京にいる私の恩師にも相談したようで，恩師からも「協力してあげて」との電話があり，翌年 4 月に赴任することになった次第です。

このたび研究室を片付けて図書の並び方の乱雑さに呆れましたが，これも前任校の友人らが手当たり次第に段ボールに入れて運び書棚に並べてくださった「おかげ」であり，赴任当時のあわただしさを物語る「史料」でもあります。その後の 3 年間は一層あわただしく，図書の整理どころではありませんでしたが，学部長そして研究科長として設置の指揮を取られた村山出先生の忍耐と先生に対する法人や大学の絶大なる信頼，また，本学に対する文科省の絶大なる信用が設置を可能にしたと思います。担当者から「学生のために，日本文化学科と同じように」と激励されるほどでした。

しかし，本当の意味で「同じように」なったのは，安酸学部長による「学部としてのカリキュラム構想」の提案からであり，説得力ある「構想」を「実施案」として取りまとめた郡司学部長の信念と熱意と馬力と，事務職員のプロ意識との絶妙なる「協働作業」によってでした。また，須田研究科長のもとで，学部と大学院のカリキュラムの整合性や担当者の拡大など設置以来の課題が話し合いによって改善されました。私自身は足を引っ張る

だけでしたが，本当の意味で「完成」された学部と大学院を，若い先生方が力を発揮する体制を見届けることができたことをうれしく思います。

教師としては，よき学生に恵まれ，「ゼミと卒論とコンパ」の大学伝統文化を全うすることができた 17 年間でした。研究者としては，たくさんの課題が積み残され，ご迷惑をおかけしましたが，安直にまとめないことを信条に「個別研究」の積み上げに愚直なまでにこだわってきました。研究者としての「完成年度」を迎えるためには，もう少しかかりそうです。とりあえず平穏のうちに教師生活を終えることができました。これもみなさまの寛大なご配慮のおかげであり，深く感謝もうしあげます。

最後に，人文学部のみなさまのご健勝と学部のますますのご発展を祈念してお別れのことばといたします。

# 略　　歴

常見　信代　1945 年 10 月 21 日生

## 学　　歴

| | |
|---|---|
| 1968 年 3 月 | 北海道大学文学部史学科卒業 |
| 1971 年 3 月 | 北海道大学大学院文学研究科西洋史学専攻修士課程修了（文学修士） |
| 1973 年 4 月－1974 年 3 月 | 東北大学大学院文学研究科研究生 |

## 職　　歴

| | |
|---|---|
| 1971 年 4 月－1973 年 3 月 | 北海道大学文学部助手 |
| 1987 年 4 月 | 北海道道女子短期大学服飾美術科助教授 |
| 1990 年 4 月 | 同　教授 |
| 1993 年 4 月 | 札幌国際大学短期大学部(旧静修短期大学)教授 |
| 1997 年 4 月 | 札幌国際大学人文・社会学部教授 |
| 1999 年 4 月 | 北海学園大学人文学部教授 |

## 学 内 委 員

就職委員，協議委員，学科委員，（大学院英米文化専攻設置準備委員），図書委員，図書館長，広報委員，公開講座委員長，大学院委員，将来構想委員，在外研修委員，基本権委員（学長指名），教務委員

## 学　　会

史学会　　西洋史学会　　中世学会

日本服飾学会(平成 11 年－16 年度理事)，日本アイルランド協会(平成 5 －18 年度理事)，日本ケルト学会，中世ブリテン史研究会（平成 20 年～現在

代表)，Haskins Society，Haskins Society Japan

平成 7 年 5 月　日本服飾学会賞

# 主な研究業績

**著　書**

共著：「マーガレット・パストン：バラ戦争期の女性像」井上泰男，木津隆司，常見信代著『ヨーロッパ中世女性誌 ── 婚姻・家族・信仰をめぐって』平凡社，1986 年 10 月，157 頁～218 頁

**翻　訳**

監訳：チャールズ・エドワーズ著『オックスフォード・ブリテン諸島の歴史　第 2 巻　ポスト・ローマ』慶応義塾大学出版会，2010 年

**論　文**

1．「中世後期のレスターシャにおける農業経営」『北大史学』12 号，1968 年 8 月，49～63 頁

2．「15 世紀イギリス・ジェントルマンの衣生活 1 」『衣生活研究』14 巻 8 号，1987 年 12 月，59～72 頁

3．「15 世紀イギリス・ジェントルマンの衣生活 2 」『衣生活研究』14 巻 9 号，1988 年 1 月，65～76 頁

4．「イギリスのカシミア・ショール産業」『月間百科』314 号，1988 年 11 月，14～21 頁

5．「シンボル・ストーンを読む」『日本服飾学会誌』11 号，1992 年 5 月，13～29 頁

6．「ピクトの王国：King- lists をめぐる諸問題」『北大史学』32 号，1992 年 8 月，21～36 頁

7．「ハイランド・ドレスの歴史をたどって：その 1 」『日本服飾学会誌』12 号，1993 年 5 月，33～43 頁

8．「ハイランド・ドレスの歴史をたどって：その 2 」『日本服飾学会誌』

12 号，1993 年 5 月，44〜54 頁

9．「王位の継承慣行をめぐって：9〜10 世紀のスコットランド」『エール』14 号，1993 年 12 月，18〜31 頁

10．「マクベス：その実像と虚像」『静修短期大学研究紀要』25 号，1994 年 3 月，87〜99 頁

11．「Pictavia から Alba へ：スコットランド初期中世の再検討」『エール』15 号，1995 年 12 月，80〜89 頁

12．「Lord of the Isles の前史を探る：始祖 Somerled を中心に」『エール』16 号，1996 年 12 月，17〜31 頁

13．「スコットランドの守護聖人：聖コロンバから聖アンドルーへ」『札幌国際大学紀要』 5 号，1998 年 3 月，103〜114 頁

14．「スコットランド独立戦争とアイルランド：ブルースの侵略とプロパガンダ文書をめぐって」『エール』19 号，1999 年 12 月

15．「スコットランドのノルマン＝コンクェスト：その 1　国王文書集の検討をとおして」『北海学園大学人文論集』17，2000 年 11 月

16．「スコットランドと『運命の石』── 中世における王国の統合と神話の役割」『北海学園大学人文論集』19 号，2001 年 7 月，65-93 頁

17．「スコットランドと『運命の石』── 中世における王国の統合と神話の役割（続）」『北海学園大学人文論集』20 号，2002 年 3 月，147-180 頁

18．「ブルースのアイルランド侵略：その目的をめぐって」『北海学園大学人文論集』23・24 合併号，2003 年 3 月，87-120 頁

19．「スコットランドの「ノルマン＝コンクェスト」(2)：証人構成の検討をとおして」『北海学園大学人文論集』25 号，2003 年 10 月， 1 -40 頁

20．「スコットランドの「ノルマン・コンクェスト」(3)：王権と辺境地帯との関係をとおして」『北海学園大学人文論集』26・27 合併号，2004 年 3 月，99-131 頁

21．「史料にあらわれた Judex」『北海学園大学人文論集』36 号，2007 年 3 月，157-187 頁

22．「スコットランドの ‘peoples address’ ── 国王証書の分析から」『中世

ブリティッシュ・ヒストリーの可能性と射程』(2004〜2007 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，研究代表鶴島博和）2008 年 5 月，80-100 頁

23.「ストラスアーン伯と『ノルマン・セツルメント』」国学院経済学 57，2009 年 3 月，369-412 頁

24.「修道院パルキアの再検討：アイオナを中心に」*The Haskins Society Journal, Japan: studies in medieval history*（Suppl. 1)，2011 年，61-81 頁

25.「『ケルト教会』と復活祭論争」『北海学園大学人文論集』57 号，2014 年 8 月，1 -87 頁

26.「アダムナーンの『聖コルンバ伝』を読む —— 史料とその問題点」『新人文学』(北海学園大学大学院文学研究科)，172-237 頁

**その他（学術関係のみ）**

1.「ピクト：その実像をめぐって」『ケルティック・フォーラム』2 号，1997 年 12 月，30〜32 頁

2.「中世における人びとの帰属意識をめぐって：12－14 世紀スコットランドの場合」『エール』20 号，2000 年 12 月，223-27 頁

3.〔共同研究報告〕「欧米諸国における多文化の問題と日本の課題」『北海学園大学人文論集』18 号，2001 年 3 月，1 - 4 頁

4.「‘運命の石’と‘ファラオの娘’」;「‘Sueno’s Stone’を読む」;「史実から物語へ —— マクベスを追う」などを連載，『スコットランド便り』33-35 号，2001-2003 年

5.〔書評〕「高橋哲雄著『スコットランド　歴史を歩く』『エール』第 24 号，2004 年 12 月，172-75 頁

6.「スコットとアイリッシュ再考」『エール』26 号，2006 年 12 月，168-172 頁

7.〔事典〕木村正俊・中尾正史編著，『スコットランド文化事典』，原書房，2006 年，中世および近世の大項目，中項目など多数

8.〔翻訳〕アン・ウィリアムズ「イングランド人の国王ハロルド 2 世の一

族とその経歴」『北海学園大学人文論集』36 号，2007 年 3 月，261-288 頁

9．「中世のブリテン諸島における教会組織の再検討」(2009～2012 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，研究代表常見信代，2013 年 6 月，1－6 頁